

～北九州市の小児救急医療体制の 「現状と課題」について～

【目 次】

1	北九州医療圏について	…	P2
2	救急医療体制について	…	P7
3	1次救急医療体制について	…	P11
4	2次救急医療体制について	…	P16
5	小児救急医療体制について	…	P19
6	小児救急の課題について	…	P23
7	小児救急に係る意見、要望について	…	P31

北九州医療圏について

医療圏について

1 医療圏の種類

一次医療圏	診療所の外来診療など日常的な医療を提供（原則、市区町村単位）
二次医療圏	救急医療を含む、一般的な入院治療が完結するよう設定（原則、複数の市区町村単位）
三次医療圏	重度のやけどの治療や臓器移植など特殊医療や先進医療を提供（原則、都道府県単位）

2 福岡県内の二次医療圏について

福岡県が、医療法に基づき、主として病院および診療所の病床の整備を図るべき地域単位として設定した医療計画上の区域。

県内には「北九州医療圏」をはじめ、「福岡・糸島医療圏」、「久留米医療圏」など合計13の圏域がある。

【北九州医療圏の概要】

構成市町村：2市4町（北九州市、中間市、芦屋町、水巻町、岡垣町、遠賀町）

○面積：601.05km²

○人口：1,070,780人（令和2年国勢調査）

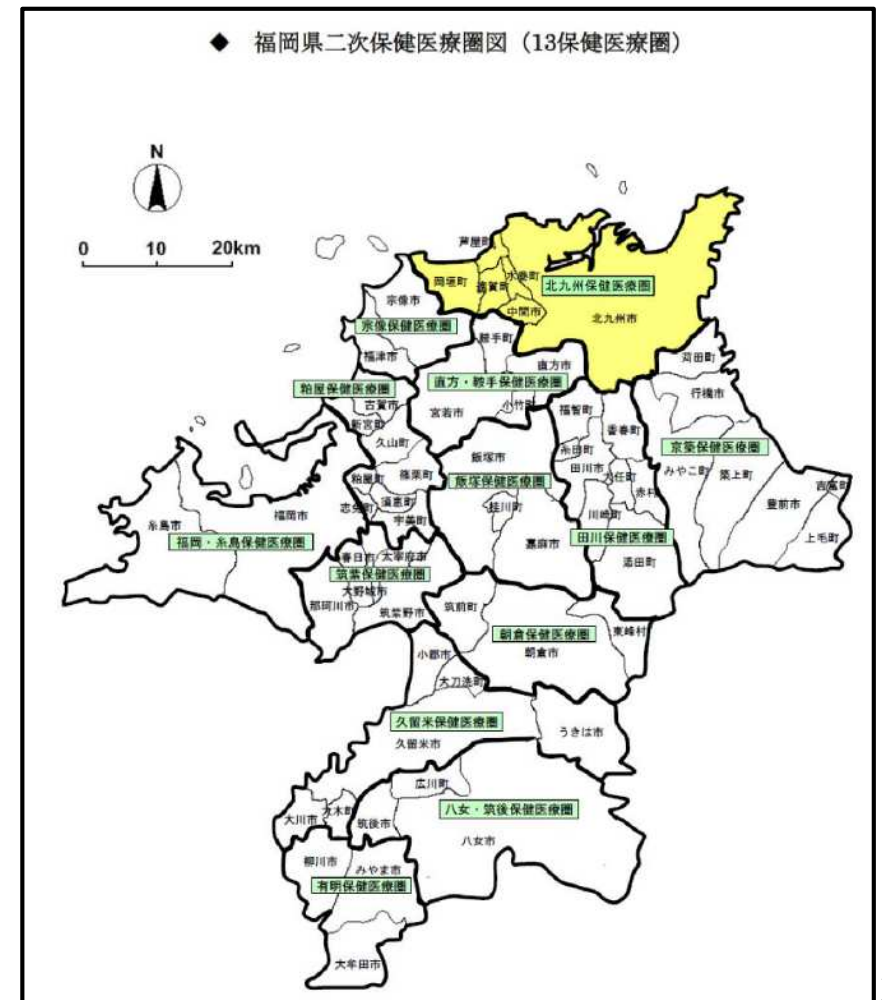
〔うち年少人口（0～14歳）：127,456人〕

〔うち生産年齢人口（15～64歳）：599,582人〕

〔うち老年人口（65歳以上）：343,742人〕

○出生数：6,658人（令和4年福岡県保健統計年報）

○死亡数：14,886人（令和4年福岡県保健統計年報）



北九州医療圏の救急医療体制について

1 圏内の医療機関数について

北九州医療圏は、北九州市、中間市、芦屋町、水巻町、岡垣町、遠賀町の2市4町で構成されている。
圏内の病院数は、101施設で一般診療所数は、1,044施設である。

【出典】令和5年度医療施設調査(令和5年10月1日時点)

2 圏内の救急医療体制

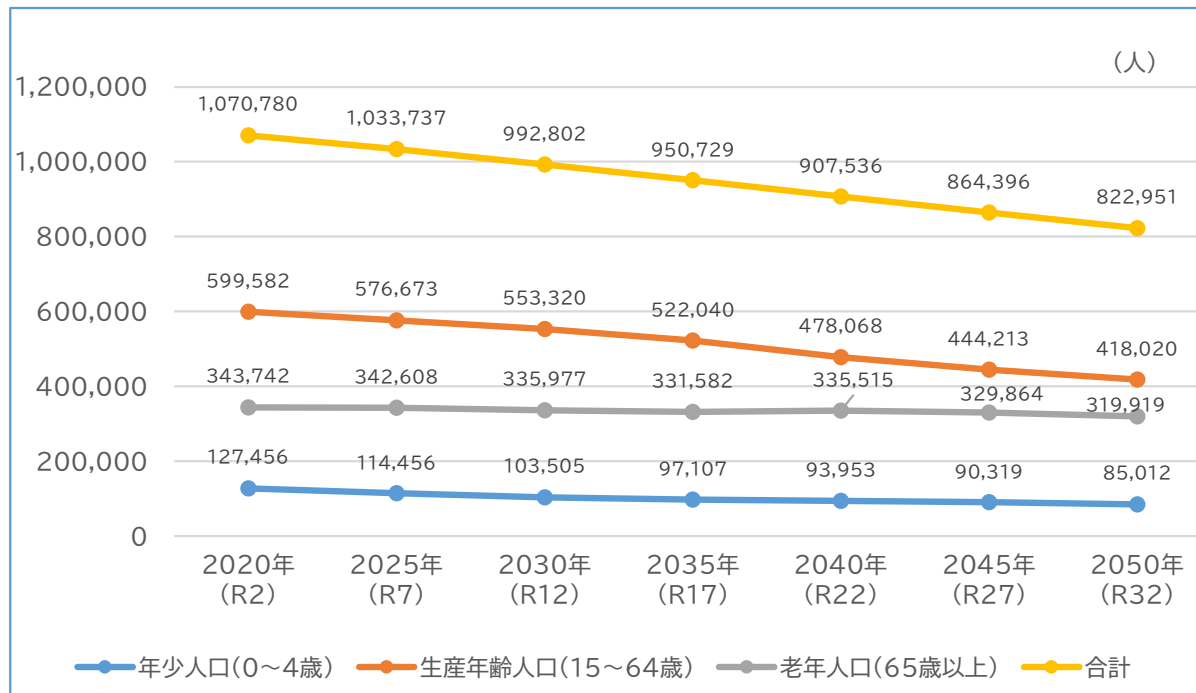
1次救急医療体制		2次救急医療体制				3次救急医療体制		
門司区	門司休日急患診療所	門司区	門司メディカルセンター	八幡西区	JCHO九州病院	小倉北区	北九州総合病院 救命救急センター	
小倉北区	夜間・休日急患センター		九州鉄道記念病院		正和中央病院			
若松区	若松休日急患診療所		門司掖済会病院		済生会八幡総合病院	八幡東区	市立八幡病院 救命救急センター	
八幡西区	第2夜間・休日急患センター		新小文字病院		産業医科大学病院			
遠賀町	遠賀中間休日急病センター	小倉北区	市立医療センター	戸畑区	戸畑共立病院	北九州医療圏には、 5箇所の1次救急、 27箇所の2次救急、 2箇所の3次救急の 医療体制が整備されて いる		
—	—		健和会大手町病院		戸畑総合病院			
			小倉記念病院	芦屋町	芦屋中央病院			
			新小倉病院	遠賀町	健愛記念病院			
			三萩野病院		おんが病院			
			北九州総合病院	中間市	新中間病院			
	小倉南区	国立小倉医療センター	水巻町	福岡新水巻病院				
		九州労災病院		水北第一病院				
	若松区	産業医科大学若松病院	—					
	八幡東区	製鉄記念八幡病院						
		市立八幡病院						

北九州医療圏には、
5箇所の1次救急、
27箇所の2次救急、
2箇所の3次救急の
医療体制が整備されて
いる

【出典】ふくおか医療情報ネット(令和7年4月1日現在)

北九州医療圏の将来人口推計について

年齢階級	2020年 (R2)	2025年 (R7)	2030年 (R12)	2035年 (R17)	2040年 (R22)	2045年 (R27)	2050年 (R32)	増減率 (対R2年)
年少人口 (0～14歳)	127,456	114,456	103,505	97,107	93,953	90,319	85,012	△33.3%
生産年齢人口 (15～64歳)	599,582	576,673	553,320	522,040	478,068	444,213	418,020	△30.3%
老年人口 (65歳以上)	343,742	342,608	335,977	331,582	335,515	329,864	319,919	△6.9%
総人口	1,070,780	1,033,737	992,802	950,729	907,536	864,396	822,951	△23.1%

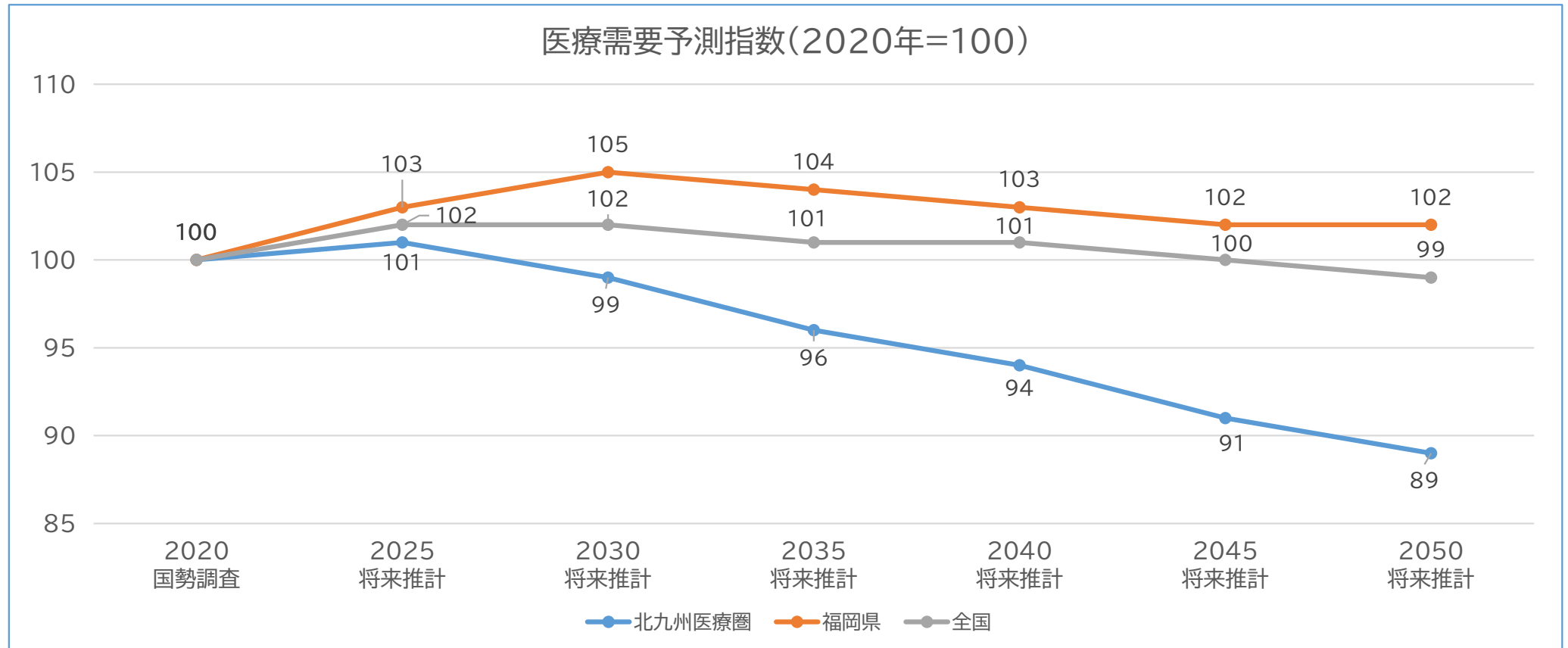


北九州医療圏の総人口は、今後、減少していく見込み。

なお2050年の人口増減率(対2020年)を年齢階級別に見ると、すべての年齢階級において減少している。

【出典】国立社会保障・人口問題研究所「年齢(5歳)階級別将来推計人口」

北九州医療圏の医療需要について



2050年の北九州医療圏の医療需要は、2020年を100とすると、89まで減少する見込み。(全国平均:99、福岡県:102)

救急医療体制について

北九州市の医療提供体制

【病院・診療所数】

○北九州市の医療機関数は、病院が90、一般診療所が949(R7.4.1時点)
人口10万人あたりの医療機関数は、病院が9.8、一般診療所数が102.7で、
全国平均(病院6.5、一般診療所84.4)を上回る。

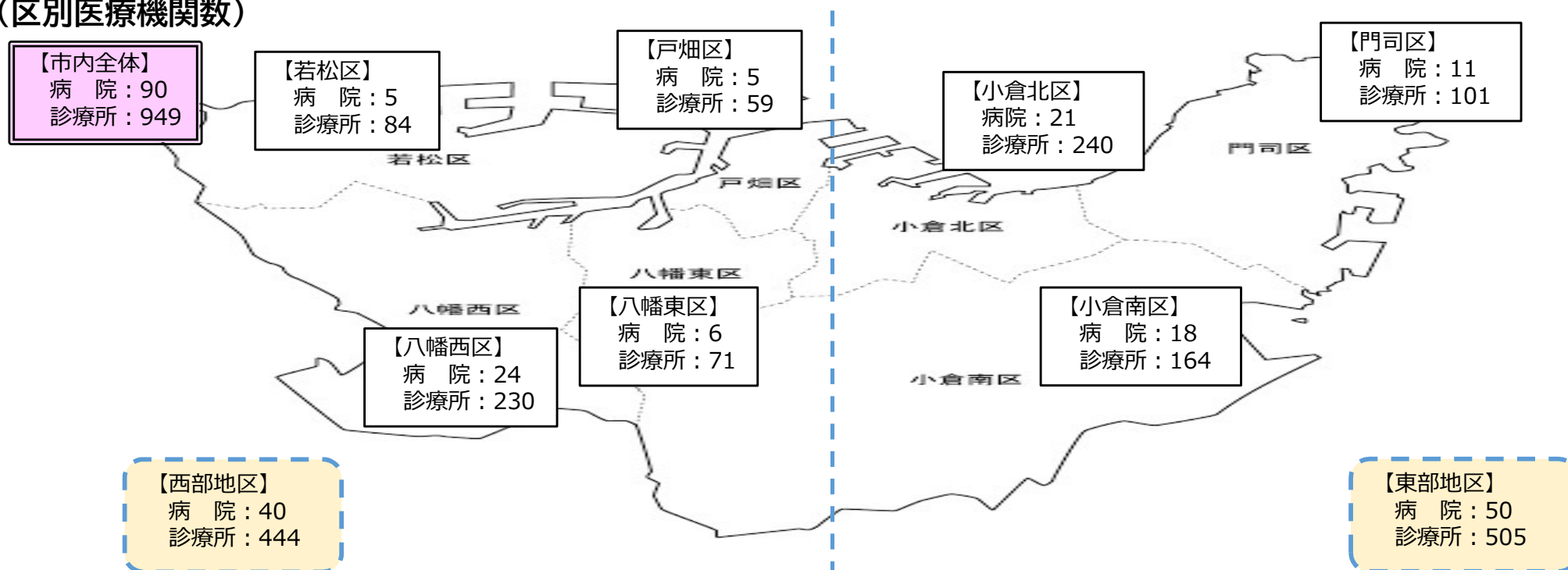
【出典】「R7.4.1時点医療機関数」…北九州市保健福祉局地域医療課調べ、「人口10万人あたり医療機関数」…令和5年医療施設調査(厚生労働省)

【医療従事者数】

○医療施設に従事する北九州市の医師数は3,358人(R4.12.31時点)であり、
人口10万人あたりの医師数は363.4人で、全国平均(262.1人)と比較しても
医師全体としては充実している。

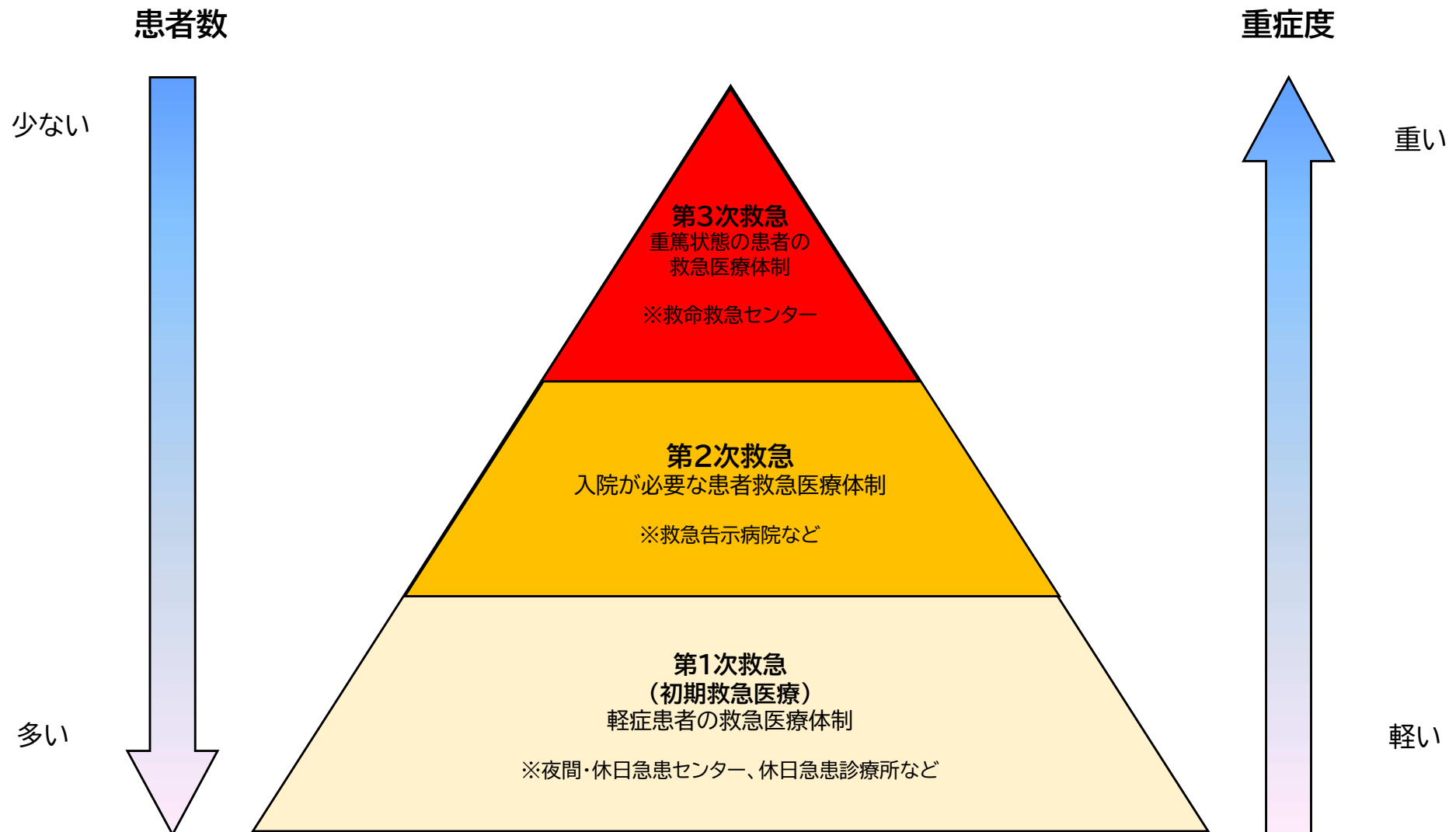
【出典】令和4年医師・歯科医師・薬剤師統計(厚生労働省)

(区別医療機関数)

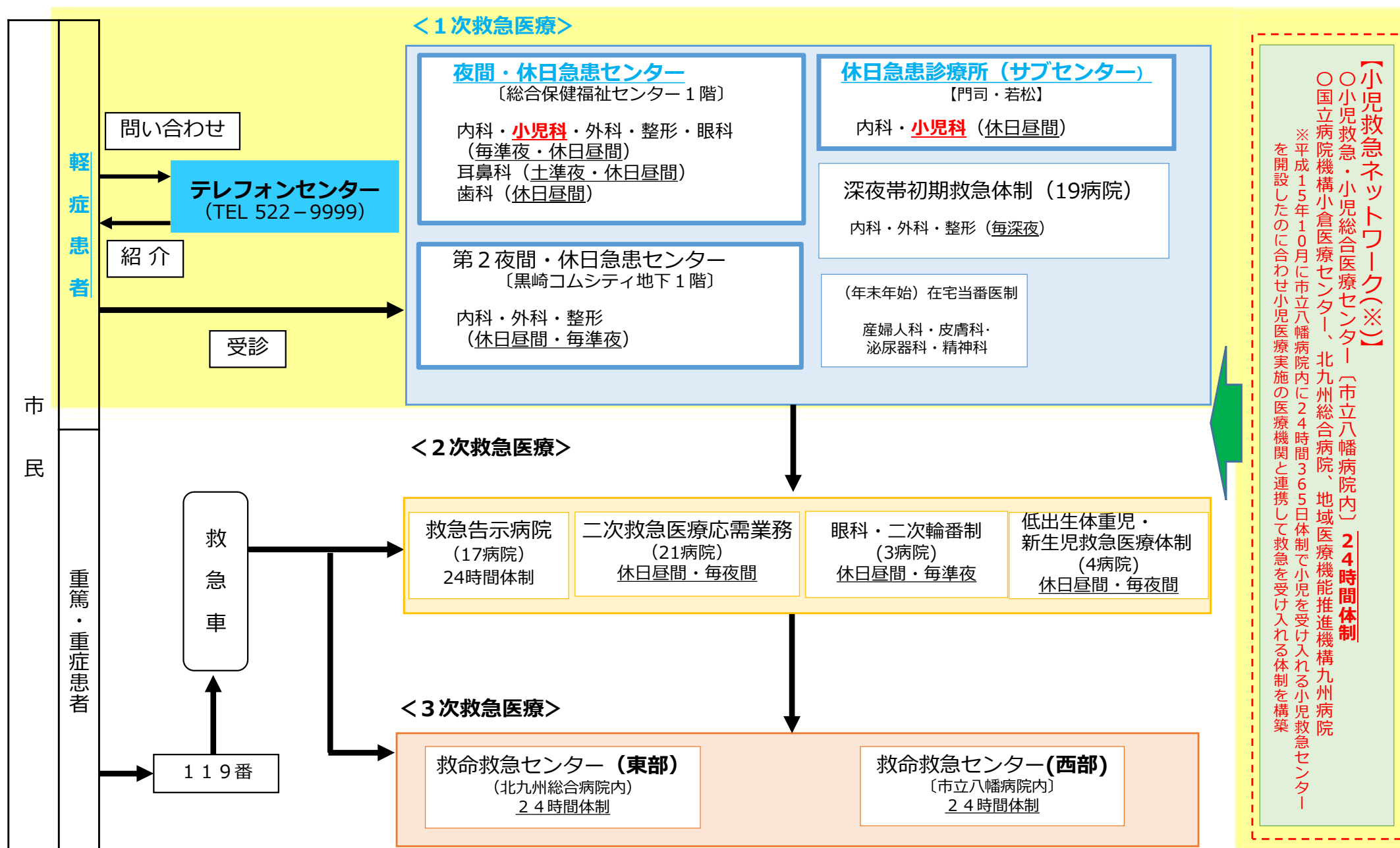


北九州市の救急医療体制の概要

北九州市医師会をはじめとした医療関係者の協力のもと、患者の状態に応じた3つの段階からなる救急医療体制を整備している。



北九州市の救急医療の流れについて



1 次救急医療体制について

北九州市が運営する夜間・休日急患センター

<診療科目及び診療時間>

NO	施設名	診療科目	診療時間	
①	夜間・休日急患センター (小倉北区馬借一丁目)	内科 小児科 外科・整形外科	月～土	19時30分～23時30分
			日、祝・休日、盆	9時～23時30分
			年末年始	9時～翌9時
		耳鼻咽喉科	土	19時30分～23時30分
			日、祝・休日	9時～23時30分
			盆	9時～17時
			年末年始	9時～翌9時
		眼科	月～土	19時30分～23時30分
			日、祝・休日	9時～23時30分
			盆	19時30分～23時30分
			年末年始	9時～17時
		歯科	日、祝・休日 盆、年末年始	9時～17時
②	休日急患診療所 (門司・若松)	内科 小児科	日、祝・休日 年末年始	9時～17時
③	第2夜間・休日急患センター (八幡西区黒崎)	内科 外科 整形外科	月～土、盆	19時30分～23時30分
			日、祝・休日 年末年始	9時～23時30分

夜間・休日急患センター等の診療実績①

NO	施設名	診療科目	診療帯	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
									患者数	1日当たり患者数
①	夜間・休日急患センター	内科	平日夜間	2,024	433	528	1,141	3,081	2,723	9
			休日	4,591	637	1,549	3,414	5,627	5,872	77
			計	6,615	1,070	2,077	4,555	8,708	8,595	—
		小児科	平日夜間	1,126	204	315	684	1,649	1,261	4
			休日	2,548	347	665	1,856	2,955	2,307	30
			計	3,674	551	980	2,540	4,604	3,568	—
		外科 整形外科	平日夜間	1,139	736	848	1,230	1,427	1,821	6
			休日	1,986	1,162	1,400	1,650	2,054	2,621	34
			計	3,125	1,898	2,248	2,880	3,481	4,442	—
		耳鼻 咽喉科	平日夜間	457	191	214	289	419	367	1
			休日	2,505	1,030	1,255	1,288	1,756	1,813	24
			計	2,962	1,221	1,469	1,577	2,175	2,180	—
		眼科	平日夜間	1,191	764	878	932	922	876	3
			休日	1,335	737	809	743	821	923	12
			計	2,526	1,501	1,687	1,675	1,743	1,799	—
		歯科	休日	551	282	266	277	353	377	5
		合 計		19,453	6,523	8,727	13,504	21,064	20,961	—

【出典】北九州市保健福祉局地域医療課調べ

夜間・休日急患センター等の診療実績②

NO	施設名	診療科目	診療帯	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
									患者数	1日当たり患者数
②	門司休日急患診療所	内科	休日昼間	767	133	121	316	1,017	1,164	15
		小児科	休日昼間	1,073	179	256	350	1,044	785	10
		合 計		1,840	312	377	666	2,061	1,949	15
	若松休日急患診療所	内科	休日昼間	951	225	196	436	1,042	1,123	15
		小児科	休日昼間	1,152	224	261	437	999	730	10
		合 計		2,103	449	457	873	2,041	1,853	15

NO	施設名	診療科目	診療帯	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
									患者数	1日当たり患者数
③	第2夜間・休日急患センター	内科	平日夜間	3,309	1,333	1,211	1,704	3,081	2,889	10
			休 日	5,513	1,458	1,929	3,127	4,791	5,065	68
			計	8,822	2,791	3,140	4,831	7,872	7,954	—
		外科 整形外科	平日夜間	1,392	1,019	1,077	1,158	1,210	1,869	6
			休 日	2,100	1,322	1,398	1,507	1,629	2,309	31
			計	3,492	2,341	2,475	2,665	2,839	4,178	—
		合 計		12,314	5,132	5,615	7,496	10,711	12,132	—

急患センター以外の1次救急体制

1 深夜帯初期救急体制

- (1) 事業概要 平成20年3月末で、第2夜間・休日急患センターで実施していた深夜帯診療が廃止されたのに伴い、引続き深夜帯の初期救急診療を確保するため、協力病院により診療を実施
- (2) 開始年度 平成20年度
- (3) 診療科目 内科、外科、整形外科
- (4) 診療時間 毎日23時～翌7時(年未年始を除く)

(5) 患者数

年度	患者数(人)
令和5年度	5,029
令和6年度	4,780

2 眼科・耳鼻咽喉科救急医療体制

- (1) 事業概要 夜間における眼科・耳鼻咽喉科の救急患者に対応するため、眼科については、原則、開業医等による夜間・休日急患センターへの出務、耳鼻咽喉科については、原則、協力病院による当番制(1日1病院)で診療を実施
- (2) 開始年度 平成4年度
- (3) 診療時間

	診療場所	診察時間	
眼科	夜間・休日急患センター	平日・土	19時30分～23時30分
	協力病院	休日	9時～23時30分
耳鼻咽喉科	協力病院	平日	18時～24時
		土	19時30分～23時30分
	夜間・休日急患センター	休日	9時～23時30分

(4) 患者数

年度	診療科	患者数(人)
令和5年度	眼科	1,202
	耳鼻咽喉科	1,544
令和6年度	眼科	1,212
	耳鼻咽喉科	1,547

3 (年未年始)在宅当番医制

- (1) 事業概要 夜間・休日急患センターで診療を行っていない泌尿器科等について、多くの医療機関が休診となる年未年始、協力医療機関による診療体制を確保する事業
- (2) 開始年度 昭和50年度
- (3) 診療科目 泌尿器科、産婦人科、精神科
- (4) 診療時間 年未年始 9時～翌9時(年未年始:12/31～1/3)

(5) 患者数

年度	診療科目		
	泌尿器科	産婦人科	精神科
令和5年度	24	24	6
令和6年度	23	17	3

2 次救急医療体制について

北九州市の2次救急医療体制①

1 二次救急医療応需業務

(1) 事業概要 平日夜間や休日に入院治療を必要とする重症患者の受け入れのため、協力病院による診療体制を構築している。

(2) 開始年度 昭和53年度

(3) 診療科目 内科、外科、眼科(※年未年始のみ)

(4) 診療時間	年度	診療時間	
	内科・外科	平日	18時～翌9時
		休日・年未年始	9時～翌9時

※眼科については、年未年始期間のみ

(5) 患者数 (内科・外科)

年度	患者数(人)
令和5年度	31,373
令和6年度	32,520

(眼科)※年未年始のみ

年度	患者数(人)
令和5年度	26
令和6年度	41

2 眼科二次輪番制

(1) 事業概要 急患センターでは対応できない重症患者を受け入れるため、協力病院による輪番制での診療体制を構築している。

(2) 開始年度 平成25年度

(3) 診療時間	診療時間		
	平日	夜間	18時～24時
	休日	昼間	9時～18時
		夜間	18時～24時

(4) 患者数

年度	患者数(人)
令和5年度	51
令和6年度	65

北九州市の2次救急医療体制②

3 低出生体重児・新生児救急医療体制

(1) 事業概要 出生と同時に緊急な治療を必要とする低出生体重児・新生児の医療を確保するため、市内4病院の輪番体制で診察を行っている。

(2) 開始年度 昭和57年度

(3) 診療時間

	診療時間	
平日	夜間	17時～翌9時
休日	昼間	9時～17時
	夜間	17時～翌9時

(4) 患者数

年度	患者数(人)
令和5年度	430
令和6年度	510

小児救急医療体制について

年少者人口推計について（北九州市全域）

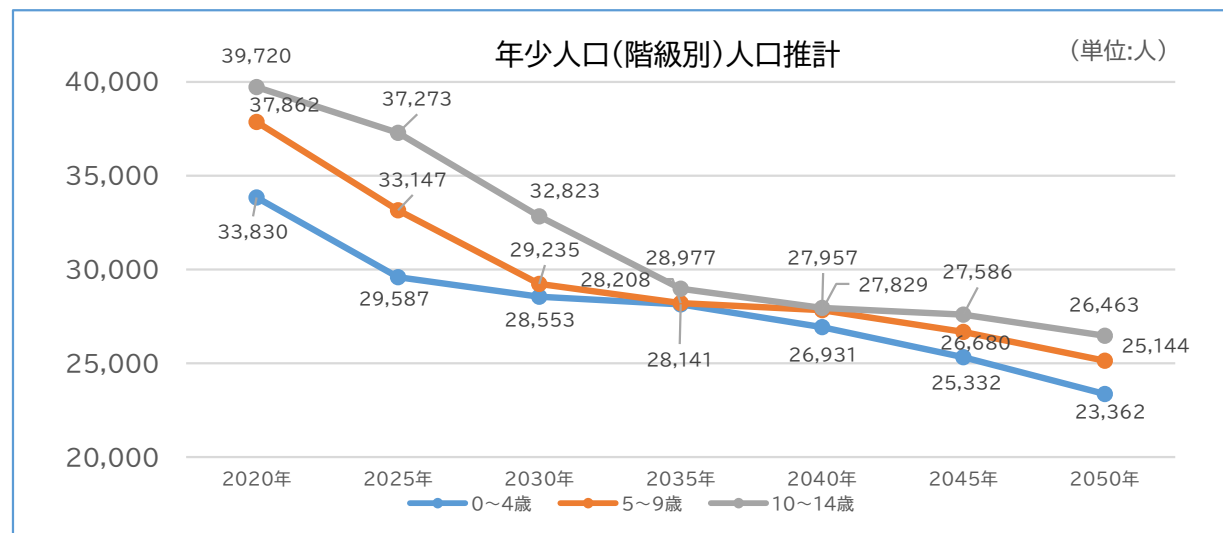
【北九州市全域】

（単位：人）

年齢階級		2020年 (R2)	2025年 (R7)	2030年 (R12)	2035年 (R17)	2040年 (R22)	2045年 (R27)	2050年 (R32)	増減率 (対R2)
年少人口	0～4歳	33,830	29,587	28,553	28,141	26,931	25,332	23,362	△30.9%
	5～9歳	37,862	33,147	29,235	28,208	27,829	26,680	25,144	△33.6%
	10～14歳	39,720	37,273	32,823	28,977	27,957	27,586	26,463	△33.4%
	小 計①	111,412	100,007	90,611	85,326	82,717	79,598	74,969	△32.7%
全人口計②		939,029	907,778	873,315	837,844	801,253	764,423	728,898	△22.4%
年少割合(①/②)		11.9%	11.0%	10.4%	10.2%	10.3%	10.4%	10.3%	—

【出典】国立社会保障・人口問題研究所「年齢(5歳)階級別将来推計人口」

※2020年は国勢調査結果の数値



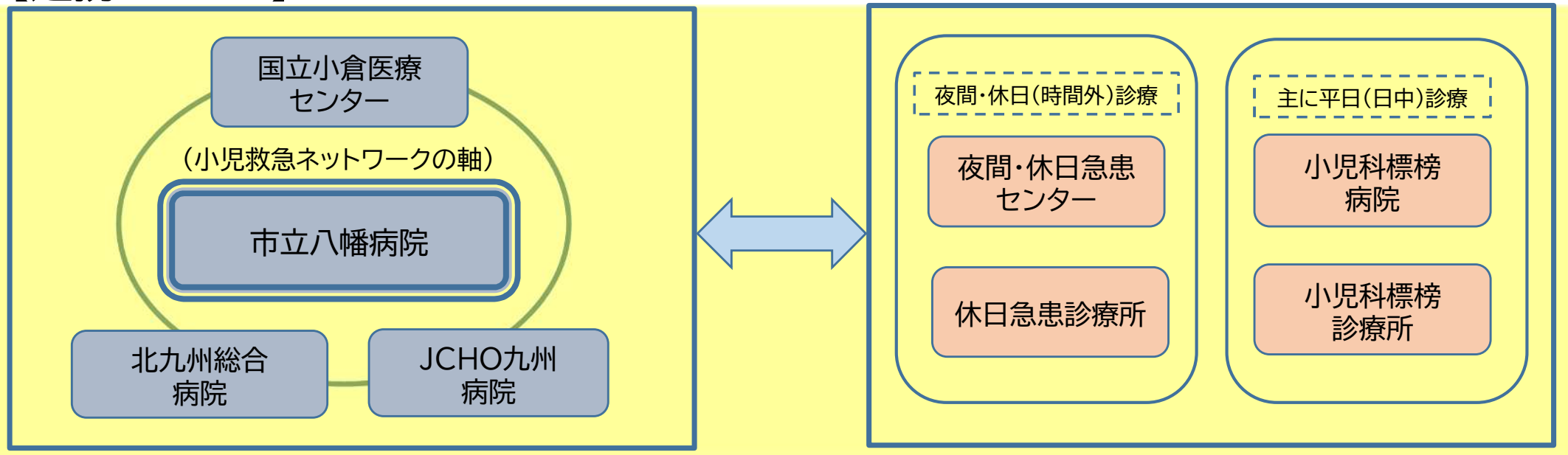
2050年の年少人口の減少率を区別に見ると、門司区(△50.3%)が最も減少率が大きく、次いで、若松区(△37.2%)、八幡東区(△35.0%)と続く。
※資料集P12参照

2050年には、年少人口が、2020年と比較し、約33%減少する見込み
(参考：福岡県 △24.1%、福岡市 △12.8%)

北九州市の小児救急医療体制

市立八幡病院を軸とした、24時間対応可能な4つの病院と小児科標榜医療機関が連携を図り、市域全体で、小児救急ネットワークを構築

【連携イメージ】



【24時間対応可能医療機関】

医療機関名	診察時間
市立八幡病院 (小児救急・小児総合医療センター)	24時間365日
国立小倉医療センター	24時間365日 ※受診の前に問い合わせが必要
北九州総合病院	(月～金) 17時～翌7時 (土) 13時～翌7時 (日・祝) 9時～翌7時 ※重症の場合は、24時間365日
JCHO九州病院	24時間365日

【小児科標榜医療機関(R7.4.1現在)】

	病院(※1)	診療所
北九州市内	21	116

※1 左記の「24時間対応可能医療機関」を含む数

【小児科を標榜する市立診療所(R7.4.1現在)】

	診療所
夜間・休日急患センター	1
休日急患診療所	2

次世代育成環境ランキングについて

北九州市は、NPO法人が実施している「次世代育成環境ランキング」で、14年連続して、政令指定都市で第1位

<調査項目(8項目)>

出産環境	乳幼児保育	児童福祉	児童養護	児童保育	母子父子福祉	小児医療	出生環境
------	-------	------	------	------	--------	------	------

<北九州市の評価>

項目	出産環境	乳幼児保育	児童福祉	児童養護	児童保育	母子父子福祉	小児医療	出生環境
順位	3位	6位	13位	4位	15位	4位	1位	6位

<北九州市の評価が高いと記載されている事項>

項目	
小児医療	平日夜間診療所、土日祭日・年末年始診療が充実している。
出産環境	病院・診療所が充実している。

【出典】NPO法人 エガリテ大手前(東京都)公表資料

小児救急の課題について

令和6年度 小児救急医療体制の診療実績

区分	小倉北				小倉南		八幡東		八幡西		門司	若松	計
	市立 医セ	健和会	急患 センター	北九 総合	九州 労災	国立 小倉	製鉄 記念	市立 八幡	JCHO 九州	産医大	門司休日 急患診療所	若松休日 急患診療所	
外来患者数	5,670	256	3,568	6,435	2,386	23,080	545	45,880	17,280	9,712	785	730	116,327
うち時間外 患者数 計	911	21	3,568	3,990	10	7,514	6	23,068	4,593	336	785	730	45,532
時間外患者数計に 占める割合	2.00%	0.05%	7.84%	8.76%	0.02%	16.50%	0.01%	50.66%	10.09%	0.74%	1.72%	1.60%	100%
深夜帯	169	10	69	964	0	1,939	0	5,012	1,198	80	0	0	9,441
深夜以外	742	11	3,499	3,026	10	5,575	6	18,056	3,395	256	785	730	36,091
入院患者数	549	0	0	1,332	179	3,929	6	3,253	2,271	792	0	0	12,311
救急車搬送 患者受入数	394	0	0	531	14	621	0	1,093	952	114	0	0	3,719

【出典】「小児救急ネットワーク部会」(北九州市主催)資料より抜粋

【時間外患者数の状況について】

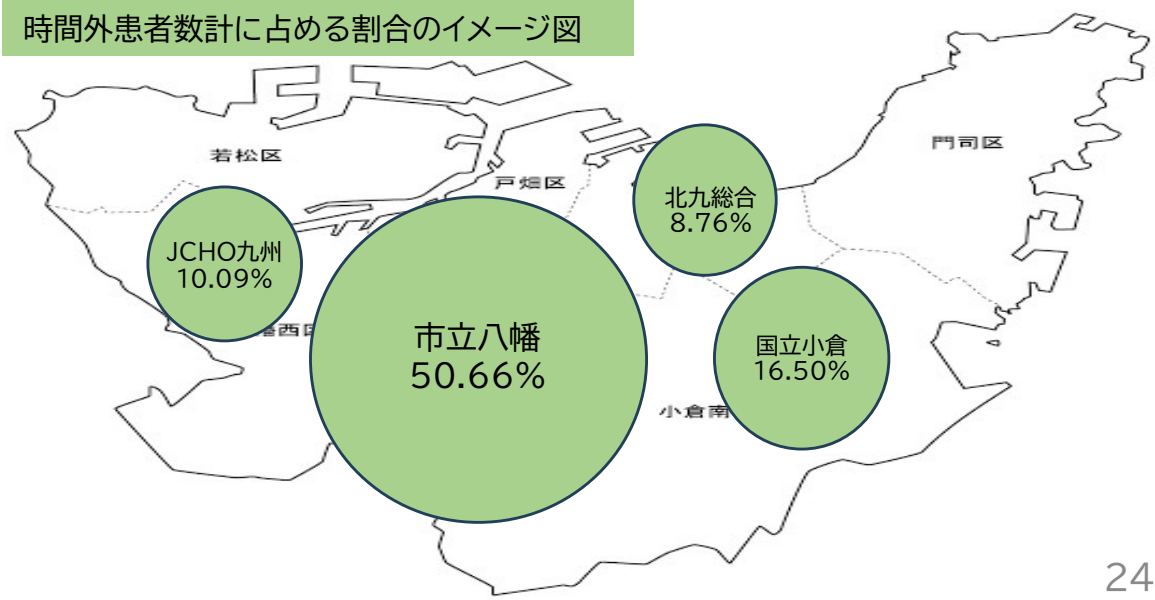
・小児救急ネットワーク4病院全体の時間外患者数は、時間外患者数全体の約86%を占めており、4病院の中でも、特に**市立八幡病院の時間外患者数は、時間外患者数全体の約51%**となっている。

※小児救急ネットワーク4病院・・・「北九州総合病院」、「小倉医療センター」、「市立八幡病院」、「JCHO九州病院」

【市立八幡病院の現状について】

- ・夜間の当直者について、朝、予定どおり帰れないことがある。
- ・夜間、特に深夜帯の患者が多く、疲弊の原因となっている。
- ・当直医や中堅医師の時間外勤務時間が多くなっている。

時間外患者数計に占める割合のイメージ図



医師の働き方改革について

現状

【医師の長時間労働】

病院常勤勤務医の約4割が年960時間超、
約1割が年1,860時間超の時間外・休日労働

特に救急、産婦人科、外科や若手の
医師は長時間の傾向が強い

【労務管理が不十分】

36協定が未締結や、客観的な時間管理
が行われていない医療機関も存在

【業務が医師に集中】

患者への病状説明や血圧測定、
記録作成なども医師が担当

目指す姿

労務管理の徹底、労働時間の短縮
により医師の健康を確保する



全ての医療専門職それぞれが、自らの能力を活かし、
より能動的に対応できるようにする

質・安全が確保された医療を持続可能な形で患者に提供

対策

長時間労働を生む構造的な問題への取組

医療施設の**最適配置**の推進
(地域医療構想・外来機能の明確化)

地域間・診療科間の**医師偏在**の是正

国民の理解と協力に基づく**適切な受診**の推進

医療機関内での医師の働き方改革の推進

適切な**労務管理**の推進

タスクシフト/シェアの推進
(業務範囲の拡大・明確化)

<行政による支援>

- ・医療勤務環境改訂支援センター
を通じた支援
- ・経営層の意識改革（講習会等）
- ・医師への周知啓発 等

→ **一部、法改正で対応**

時間外労働の上限規制と健康確保措置の適用（2024.4～

法改正で対応

地域医療等の確保

医療機関が医師の労働時間
短縮計画の案を**作成**
評価センターが**評価**
都道府県知事が**指定**
医療機関が
計画に基づく取組を**実施**

医療機関に適用する水準	年の上限時間	面接指導	休息時間の確保
A （一般労働者と同程度）	960時間	義務	努力義務
連携B （医師を派遣する病院）	1,860時間 ※2035年度末 を目標に終了		義務
B （救急医療等）			
C-1 （臨床・専門研修）	1,860時間		
C-2 （高度技能の修得研修）			

医師の健康確保

面接指導

健康状態を医師がチェック

休息時間の確保

連続勤務時間制限と
勤務間インターバル規制
(または代償休息)

北九州市内の特定労務管理対象医療機関について

	医療機関	指定の種類			
		B水準 (地域医療)	連携B水準 (医師の派遣)	C-1水準 (臨床・専門研修)	C-2水準 (高度技能研修)
門司区	新小文字病院	○		○	
小倉北区	小倉記念病院	○		○	
	北九州総合病院	○			
	健和会大手町病院	○		○	
	国立小倉医療センター	○			
小倉南区	九州労災病院	○			
	産業医科大学若松病院		○		
八幡東区	市立八幡病院	○			
八幡西区	産業医科大学病院	○	○	○	
	JCHO九州病院	○	○		
	計	9	3	4	0

10年後に予定されている特例水準(B、連携B)の終了後は、これまで以上に急患センター等の出務医師の確保が困難となることが予想される。

医師の働き方改革に係るアンケート結果

【調査の概要】

- 実施期間 令和7年7月2日～令和7年7月23日
- 調査対象 第二次医療応需協力病院(市内21病院)

1 医師の働き方改革の影響について

影響の程度	件数
働き方改革の影響は、大いにあった	3
働き方改革の影響はあるが、想定範囲だった	8
働き方改革の影響は、少なかった	9
未回答	1

21病院のうち、11病院(52.4%)が、少なからず働き方改革の影響を受けているとの回答であった。

2 医師の働き方改革に係るその他の意見について

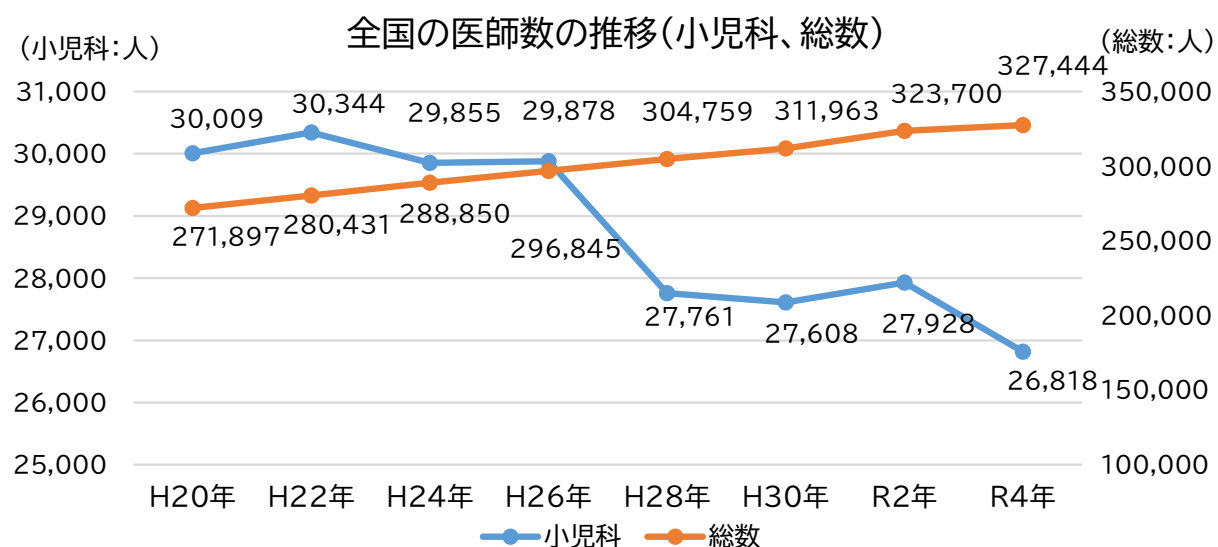
- ・手術人員の確保の影響が無視できない。
- ・医師派遣の減のため患者の受け入れや常勤麻酔科医の不在に伴う緊急手術を制限する必要があった。
- ・年間960時間以内とするために、一部宿日直の免除、救急応援医師の派遣を調整。
- ・北九州市の救急医療を支えてきた第2次救急応需協力病院への応援医師の派遣は必要。

【出典】「救急医療体制に関するアンケート調査」結果(令和7年7月北九州市保健福祉局地域医療課実施)

医療機関に従事する医師数の推移①

【全国の医師数】

診療科	H20年	H22年	H24年	H26年	H28年	H30年	R2年	R4年		
								医師数	増減数 (対H20)	増減率 (対H20)
総数	271,897	280,431	288,850	296,845	304,759	311,963	323,700	327,444	55,547	20.4%
内科	86,992	88,155	87,773	89,234	87,761	89,037	91,242	92,677	5,685	6.5%
呼吸器内科	12,547	13,185	13,158	13,499	13,405	13,692	13,841	13,763	1,216	9.7%
小児科	30,009	30,344	29,855	29,878	27,761	27,608	27,928	26,818	△3,191	△10.6%
精神科	14,977	15,599	16,136	16,780	17,077	17,397	18,037	18,377	3,400	22.7%
外科	28,717	28,918	28,165	27,738	25,673	24,842	24,353	23,552	△5,165	△18.0%
整形外科	24,085	24,679	24,917	25,256	25,106	25,488	25,973	25,726	1,641	6.8%
眼科	12,960	13,034	13,030	13,147	13,357	13,513	13,816	13,734	774	6.0%
耳鼻咽喉科	9,286	9,315	9,343	9,446	9,536	9,519	9,831	9,616	330	3.6%
産科・産婦人科	10,900	11,161	11,439	11,590	11,763	11,746	12,097	12,278	1,378	12.6%



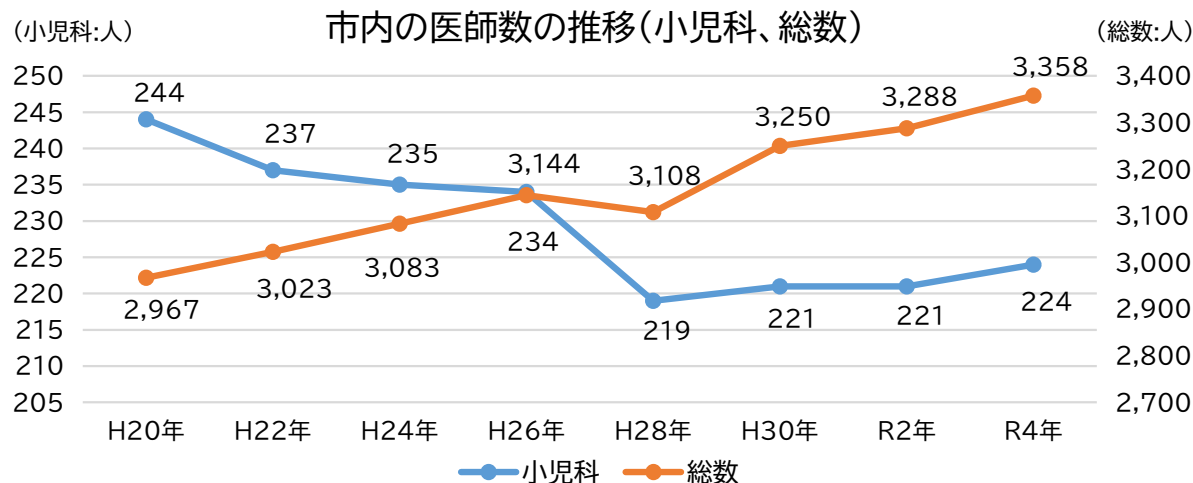
全国の医療機関に従事する
令和4年の小児科医師数は、
平成20年と比較し、3,191人(△10.6%)減少している。

※参考 医師総数(対H20)+55,547(+20.4%)

医療機関に従事する医師数の推移②

【北九州市の医師数】

診療科	H20年	H22年	H24年	H26年	H28年	H30年	R2年	R4年		
								医師数	増減数 (対H20)	増減率 (対H20)
総数	2,967	3,023	3,083	3,144	3,108	3,250	3,288	3,358	391	13.2%
内科	892	906	881	887	825	843	863	882	△10	△1.1%
呼吸器内科	144	154	153	175	159	170	167	159	15	10.4%
小児科	244	237	235	234	219	221	221	224	△20	△8.2%
精神科	136	148	145	168	171	176	178	182	46	33.8%
外科	295	331	319	323	274	273	278	275	△20	△6.8%
整形外科	276	295	271	284	292	293	286	271	△5	△1.8%
眼科	130	124	125	117	114	109	114	122	△8	△6.2%
耳鼻咽喉科	91	95	91	87	83	82	78	81	△10	△11.0%
産科・産婦人科	107	108	100	120	110	112	114	124	17	15.9%



市内の医療機関に従事する
令和4年の小児科医師数は、
平成20年と比較し、20人(△8.2%)減少して
いる。

※参考 医師総数(対H20) +391人(+13.2%)

【出典】医師・歯科医師・薬剤師統計(厚生労働省)

2 4 時間対応の小児救急病院の小児科医師（常勤）数の推移

医療機関名	H30年	H31年	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年	R7年		
								医師数	増減数 (対H30)	増減率 (対H30)
北九州総合病院	6	6	6	6	6	6	6	6	0	0.0%
国立小倉医療センター	17	17	17	19	18	18	20	16	▲1.0	▲5.9%
市立八幡病院	32.6	28.5	27.7	25.7	26.7	25	23	23	▲9.6	▲29.4%
JCHO九州病院	19	19	20	19	20	19	19	21	2	10.5%

【出典】「小児救急ネットワーク部会」(北九州市主催)資料より抜粋

小児救急に係る意見、要望について

小児救急に係る会議体について

1 北九州市「小児救急ネットワーク部会」

(1) 概 要

市内の小児救急医療について調整を行うことを目的として北九州市が設置(年1、2回開催)

(2) 会 員

北九州市医師会担当理事、北九州地区小児科医会会長及び市内の小児救急医療に携わる9病院

(3) 最近の議題等

- 医師の働き方改革についての意見交換等
- 北九州市の小児救急医療体制についてなど

2 北九州市医師会「救急・災害医療委員会」

(1) 概 要

市内の救急医療・災害医療全般について報告・協議を行う北九州市医師会の委員会
(月1回程度開催)

(2) 委 員

北九州市医師会役員、地区医師会担当理事、専門委員

(3) 議題等

小児救急を含む、救急・災害医療全般

小児救急医療体制等の見直しに係る意見・要望

○令和5年12月15日開催
令和5年度小児救急ネットワーク部会(北九州市主催)

【意見】

- ・市立八幡病院、国立小倉医療センター、JCHO九州病院の3病院は、急患センターへの小児科医出務が困難。
- ・救急患者数全体の1割にも満たない実績である急患センターへ医師を出務させるのは非合理的。
- ・北九州市は大きな4病院がネットワークで救急を担っている現実があり、そういったところにマンパワーを集めるべき。

○令和5年12月25日開催
救急・災害医療委員会(北九州市医師会主催)

【意見】

- ・急患センター、門司・若松休日急患診療所への小児科医の出務が難しくなっている。
小児科については市に廃止・縮小をベースに検討してほしい。

○令和6年5月24日開催
令和6年度小児救急ネットワーク部会(北九州市主催)

【意見】

- ・今後24時間救急を実施する4病院、夜間・休日急患センター、門司・若松休日急患診療所をすべて維持するのは難しい
と考える。

○令和6年6月20日
北九州市医師会から要望書(救急医療体制の再構築について)受領

【意見】

- ・門司・若松の休日急患診療所の小児科については、限られたマンパワーや財源等の医療資源をより効果的に活用すべく、
今後の救急医療体制の在り方を可及的速やかに検討すべき。

小児救急の現状と課題等の整理（フロー図）

現 状

北九州市の小児救急医療体制は、市立八幡病院を軸とした、24時間365日対応可能な4つの病院と夜間・休日急患センターなどの小児科標榜医療機関が連携を図り、市域全体で充実した体制を構築。

個別背景

○市立八幡病院の小児医療体制のひっ迫

○小児救急ネットワークの維持の重要性

社会背景

○「医師の働き方改革」

○「全国的な小児科医の減少傾向」

課題①

市立八幡病院の受入れ困難、
ネットワーク機能破綻の恐れ

市民への
影響大

課題②

小児科医の確保が困難
(急患センター出務困難)

これまでいただいた主なご意見・ご要望

○北九州市は、大きな4病院がネットワークで救急を担っている現実があり、そこにマンパワーを集めるべき。

○今後、24時間救急を実施する4病院、夜間・休日急患センター、門司・若松休日急患診療所をすべて維持するのは難しい。

○今後の小児救急医療体制のあり方を可及的速やかに検討すべき。

ご意見いただきたいポイント

○小児救急の現状について

○小児救急の課題等について

○その他の意見